

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： SNS が生み出す自己像の歪み形成機構の解明とその補正法の開発

2. 個人研究者名

中野 珠実 (大阪大学大学院生命機能研究科 准教授)

3. 事後評価結果

本研究では、自己像の認識に着目し、レタッチに伴う変容や視点による変化、意識と無意識の違い、さらに、それが社会判断に及ぼす影響を脳活動計測と行動計測により明らかにすることを目的とした。

結果として、無意識下でも自己像に対して脳内ドーパミン報酬系が働くこと、自分に似ている顔ほど信頼できると評価する傾向があること、さらに、どの視点でも自己表象にはサリエンス・ネットワークが一貫して関与していること等が判明した。

これらの成果は、自己像に関して、レタッチを中心に、神経科学的に明らかにできており評価できる。また、主に視覚的情報に基づく自己認識のメカニズムや脳内の賦活状況を明らかにしている点も特筆すべきである。

今後は、実験結果と考察の背後にある「自己認識」の基本的な原理を探求してほしい。